

平成28年(2016年)1月

内外情勢の回顧と展望



公安調査庁

表紙で使用している写真について

(左から)

- ・ RUSSIA-SYRIA-PUTIN-ASAD (AFP=時事)
- ・ 立入検査
- ・ BRITAIN-IRAQ-SYRIA-CONFLICT (AFP=時事)
- ・ 東京・日比谷野外音楽堂で開かれた安全保障関連法案に反対する集会で「違憲」と「廃案」のプラカードを掲げる参加者 (共同)
- ・ アジアインフラ投資銀行 (AIIB) 設立協定の署名式 (Photoshot/時事通信フォト)
- ・ 朝鮮労働党創建 70 年の軍事パレードで演説する金正恩第 1 書記 (共同)

内外情勢の回顧と展望(平成28年版)の 発刊に当たって

公安調査庁長官 野々上 尚

公安調査庁は、毎年1月、その前年の、公共の安全に関わる我が国内外の諸情勢を「内外情勢の回顧と展望」に取りまとめて、発刊しております。ここにその平成28年版をお届けします。

当庁は、公共の安全の確保を任務とし、このために破壊活動防止法、無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律に基づく団体の規制を行うこととされ、現在は、オウム真理教に対する観察処分を実施中です。また、当庁は、この任務を全うするため、我が国の公共の安全に影響を及ぼし得る周辺諸国の状況、国際テロリズムや国内諸団体の動向など、内外の諸情勢に関する情報の収集・分析に取り組み、これを団体規制につなげるとともに、我が国情報コミュニティのコアメンバーとして、政府の政策決定への情報貢献に努めております。

平成27年(2015年)における内外の諸情勢を見ますと、北朝鮮が核・ミサイル開発を継続する中、シリアにおける邦人殺害テロ事件、パリにおける連続テロ事案等の重大国際テロ事案が相次いで発生し、「ISIL」が十字軍の一員であるとして我が国をテロの標的として名指しするなど、一段と我が国に対する国際的脅威が高まりつつあり、他方で、オウム真理教が依然として危険な体質を保持し続ける中でその勢力を維持し、また、過激派がなお活動を継続し、一般国民の取り込みを図る動きが見られます。さらに、我が国の各種機関・組織等の重要情報の窃取を狙ったとみられるサイバー攻撃事案が続発するなど、内外の諸情勢は厳しさを増していると言わざるを得ません。

このような情勢の下、平成28年(2016年)5月には主要国首脳会議(伊勢志摩サミット)が開催されます。同サミットの安全開催に向け、当庁は、「2016年主要国首脳会議関連特別調査本部」を設置し、各種情報の収集・分析に全力を挙げています。現在の脅威は国家機関だけではなく、民間の組織・個人にも及んでおり、公共の安全を守るための官民の協力の必要性が一段と高まっており、当庁は、これを充実させるため、国民の皆様への直接の情報発信に一層努力したいと考えております。

我が国は、伊勢志摩サミット以降も、平成32年(2020年)の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催等を控えており、我が国の治安に世界中の注目が集まることとなります。皆様には、本資料を御活用いただきますとともに、当庁の業務について御理解を賜りますよう、この場を借りて心からお願い申し上げます。

平成27年11月

目次

01 内外情勢の回顧と展望（平成 28 年版）の発刊に当たって

特集

06 伊勢志摩サミットの開催に向けて

- 1 国際テロ、サイバー攻撃、反グローバル化勢力などによる不法事案発生が懸念
- 2 サミットの安全開催に向けて取組を強化する公安調査庁



(時事通信フォト/朝日航洋)

首脳会議が行われる三重県志摩市・賢島

平成 27 年の国外情勢



1 北朝鮮・朝鮮総聯

09 1-1 引き続き「並進路線」を掲げつつ国威発揚を図る北朝鮮

10 **コラム** 「並進路線」、 「核保有国」 化に対する北朝鮮の言説

11 1-2 米国との対立は解消せず、 中国との関係には改善の兆し

12 **コラム** 歩み寄る北朝鮮と中国

13 1-3 南北間の軍事的緊張を高めた上、 対話の再開に持ち込んだ北朝鮮

14 1-4 「日本人調査」 開始から 1 年を経過するも、 結果報告の引き延ばしを図る北朝鮮

16 1-5 許宗萬議長の下での「団結」 を徹底して統制力強化を図る朝鮮総聯

18 **コラム** 朝鮮総聯結成 60 周年をめぐる動向



(時事)



(共同)

2 中国

19 2-1 噴出する経済・社会の難問に直面、強硬措置で突破を図る習近平指導部



21 コラム 「国家安全保障」体制整備を急ぐ中国

22 コラム 「抗日戦争勝利70周年」記念式典

23 2-2 地域大国としての地位確立を図りつつ、自国に有利な国際秩序作りに着手



26 コラム 緊張が続く南シナ海情勢

27 2-3 対日関係改善の姿勢を示しつつも、「歴史認識問題」「領有権問題」での原則的立場を堅持

29 コラム 「歴史認識問題」に絡んだ中韓の連携の動き

30 コラム 「抗日関連施設・史料」を活用した中国の宣伝活動

31 2-4 台湾の政権交代を視野に警戒感を強める中国

3 ロシア

32 3-1 ウクライナ問題をめぐる欧米との対立などを受け、中国や旧ソ連諸国との連携を強化するとともに、中東での影響力拡大を企図

35 コラム ロシア・中国関係においては「協力」と「競合」が混在

36 3-2 我が国との関係改善を標ぼうしつつも、北方領土問題では我が国の主張を「歴史の見直し」と批判、要人を相次ぎ現地へ派遣

39 コラム ロシア連邦政府が北方領土開発に関する新プログラムを決定



4 中東・北アフリカ

40 4 混迷の度を深める中東・北アフリカ情勢

5 国際テロ

43 5-1 「イラク・レバントのイスラム国」の脅威が各地に拡大

46 **コラム** 海外で邦人がテロ被害に。「イラク・レバントのイスラム国」は我が国をテロの対象と名指し

47 5-2 アフغانستان及びパキスタンでは不安定な治安情勢が継続

48 **コラム** 「タリバン」最高指導者の死亡

49 5-3 東南アジアなどでは「イラク・レバントのイスラム国」の影響が拡大

50 **コラム** テロと世界遺産



(AFP=時事)

6 我が国に対する有害活動



(時事)

51 6 軍事転用可能物資・技術や重要情報の獲得を狙った活動

53 **コラム** 北朝鮮・イラン間の核・ミサイル分野における協力関係に関する指摘

54 **コラム** IoT (モノのインターネット) 遠隔操作テロの脅威

54 **コラム** 重要情報の保護などに向けた公安調査庁の取組

平成27年の国内情勢



1 オウム真理教

56 1-1 依然として危険な体質を堅持するオウム真理教

58 **コラム** 四者会議について

59 1-2 “麻原絶対”を維持しつつ、麻原子息の復帰に向けた活動を展開する主流派

60 **コラム** 地下鉄サリン事件から20年を経て
～今なお続く被害者・遺族の苦しみと事件風化への懸念～

61 1-3 引き続き、観察処分逃れを企図する上祐派



2 社会的に注目を浴びた 事象をめぐる諸団体の動向

- 63 2-1 平和安全法制関連法案を捉え、党派を超えて政権批判活動を展開
- 64 2-2 米軍普天間基地の辺野古移設阻止を掲げた妨害などの抗議行動を継続
- 65 2-3 原発「再稼働阻止」を訴えて、抗議行動を実施
- 66 2-4 「戦後 70 年」に際し、歴史認識問題をめぐる政府の姿勢を批判



革労協解放派・反主流派のウェブサイト
(<http://www.kaihou-sekisaisya.jp/>)

3 過激派

- 67 3-1 革労協解放派の反主流派が3年連続でゲリラ事件をじゃっ起
- 68 3-2 労働者・市民層の取り込みに力を注いだ過激派
- 69 3-3 日本赤軍・「よど号」グループの動向
- 70 **コラム** 過激派による国際連帯活動

4 共産党

- 71 4 安倍政権との対決姿勢を強調し、存在感をアピールした共産党
- 72 **コラム** 55年前の政府構想と同様の「国民連合政府」構想

5 右翼団体など

- 73 5 周辺国との諸問題を取り上げて活動した右翼団体など
- 74 **コラム** 右翼団体の国際活動



75 巻末資料 平成 27 年の主要公安動向

77 公安調査庁 WEB サイトの紹介

※この「内外情勢の回顧と展望」(平成 28 年版)は、平成 27 年における内外公安動向を回顧し(11 月末現在)、今後を展望したものです。なお、本文中、特に断りのない限り「○月」との表記は、原則として平成 27 年(2015 年)の当該月を指し、本文に記載した人物の肩書きは、当時のものとしています。